

## (8) 皮膚科

### 概要と特色

- (a) 1965 年以来、国立小児病院から継続して、わが国で数少ない小児専門皮膚科の筆頭として活動している。
- (b) 0 歳から 15 歳以上まで、一人の患者を一人の医師が継続して経過観察しているケースも多い。
- (c) すなわち長期間にわたる小児皮膚疾患の統計的データをもつ。

### 外来診療

- (a) 一般的な湿疹を代表とする小児皮膚疾患を、早期から適切に治療することを目的とする。
- (b) アトピー性皮膚炎は、湿疹として皮膚外用療法を適切に行い、皮膚生理学に基づいた知識を用いたスキンケア指導をおこない、社会問題化しているとさえいわれるこの疾患であるが、特別な問題もなく短期間で寛解させ家族に喜ばれている。
- (c) もちろん、必要な場合には、アレルギー検査、指導もおこなっている。
- (d) 湿疹に続いて多い、小児感染症は、細菌性、ウイルス性ともに、まず臨床的な診断を的確に行い、原因の検索と治療を行う。学校保健、保育園への指導も行う。
- (e) 先天性疾患、母斑症などを皮膚科診断学、皮膚病理学において的確にまた早期に診断をくだし、必要な検索および出来る限りの治療を行う。
- (f) あざのレーザー治療、小腫瘍の摘出などの小手術を積極的に行い、本人、家族の要望に応えるようにしている。この場合、外来での無麻酔ないしは局所麻酔下に行うことが 8 割であるが、2 割は日帰りの全身麻酔下のデイサージェリーを行っている。

### 入院診療

- (a) 入院治療は重症化したアトピー性皮膚炎、感染症、レーザー治療や手術の前後の患者に対して行っている。
- (b) 他科の入院患者の往診は 1 日に 10 名前後依頼されて行っている。
- (c) 褥瘡チームとしての立ち上げに協力し、褥瘡治療の基本をスタッフに指導してきた。現在も週 1 回の回診を定期的に行っている。